

山崎郷土叢書

NO. 120
25.3.10
山崎郷土研究会
兵庫県宍粟市山崎町
春名俊夫

宇野氏と篠の丸城(二)

藤原孝三

(前号の続き)

四、篠の丸城の解説

「篠の丸城」は地元をはじめ「赤松家播備作城記」には赤松越前守(越後守) 顕則が初めて築き居城としたが、後に飾東郡庄山城移ったと記す。その後、宇野藏人光景(満景)が居城していたが、天正二年(一五七四)父子不和により家臣に殺害された。その後は家臣の内海左兵衛が在城していたが天正八年(一五八〇)羽柴秀吉により落城したとする。

これらの背景は宇野氏の本城が「長水山城」であり「篠の丸城」は出城とする。しかし、実際はどうであったのか?

拙論では「篠の丸城」が本城であり、「長水山城」は詰の城であると考ええる。

赤松顕則は、春日部家の長子であり、家領に塩田村三ヶ村がみ

目次

宇野氏と篠の丸城(二)	藤原孝三	1
百済伝説の宮崎県東臼杵郡南郷村(現美郷町南郷区)		
神門神社の鏡調査について	片山昭悟	9
鬼ども多くなむろして	浅田耕三	15
百年前の宍粟の名所旧跡	宗平圭司	16
事務局だより		18

られ戦国時代まで存続した。そのため、拠点として山城を築いたことは推測される。

現在の山城跡は戦国時期もので、その「城郭」は度々改修されており、次のように山体全体に広がっており立派な山城跡である。

まず居城を考える場合、領主としては「地域支配や交通の利便性」などの経済的な面を考慮していたはずである。一方、近世の戦記を主とする伝承では、この点が欠落している。

天正年間、黒田官兵衛は、羽柴秀吉により、宍粟郡の内一万石を増加させてこの城を使用したと考えられる。

(一) 位置

兵庫県の西南部、揖保川の中流盆地で山崎断層による東西交通

路が交差する地点、川の彎曲するために土砂堆積によって形成された川瀬が広がっているため“広瀬”と呼ばれている。

この広瀬に突き出した山系の先端のピーク（標高324m）に山城は築かれている。山系の前面は河岸段丘が広がり、そこに居館や構が所々に存在する。

(二) 城郭の配置 (図1)

城郭は南面の門前地区を「大手口」とし、北の横須地区を「搦手口」として山体全体に郭が配置されている。

篠の丸城郭は標高三三四mの屋形郭（本郭）を中心に、南・西・北に数多くの削平地を有する大規模な山城跡である。

山城跡には畝状堅堀を数多く設置し、井戸・横堀・堀切・土塁・城道などがあり、戦国後期の様子をよく残している。

ア、屋形郭（仮称） (図2)

最も中心となる郭は、南北五十m・東西三十七mの削平地であり、北東と南西の鬼門には「鬼門避け」の角切りがみられる。

郭の南面と西面には土塁を伴った横堀が残り、虎口（こぐち）は南の中央部に存在しており、形式は「二折の平入虎口」である。東面は五mの段差をもって城道にのぞむ。北面は多くの削平地に続いている。

現在は城跡公園として整備されており、いろいろな標柱類と「妙見社」が奉られている。またトイレなども設置されている。

山城の機能した時期には、一族の参集する御殿などの建物が建つだけの十分な広さと防御性を持っていた。

イ、南郭（S-1〜7）についての説明

* S-7郭 大手道を登り最初の削平地で、現在は笹が繁っているが、半月状で入口と出口が食い違いになっており、右に行くと堅堀に落ちる構造に設計されている。

* S-6郭 7郭をバックアップする比較的大きい（幅一〇m、長さ二〇m）削平地である、出口の道は登り坂になっている。

* S-5郭 6郭の登り坂を攻撃できる、幅狭い独立した削平地である。

* S-4郭 5郭の出口付近は急坂で、進入した敵軍は直進する様に見え、この郭に入るには折返す事が必要なトリックになっている。

この郭中も段があり、右折して次の郭に登る様になっている。

* S-3郭 比較的大きな削平地で、現在無線の小屋が建てられている。

* S-2郭 3郭と1郭をつなぐ踊場的な小さい削平地である。

* S-1郭 大手道最後の大きな（東西二〇m・南北二五m）削平地で、一本松があったが、現在は枯れて一帯にはツツジが植えられる。公園の休憩小屋があり、憩いの場になっているが変更が気になる。

城郭機能としては、西方面の城道の起点と屋形郭への入り口防御として重要な郭である。

ウ、西郭（W-1〜9）についての説明

* W-1郭 屋形郭への入り口防御の為の各一五mの削平地で、

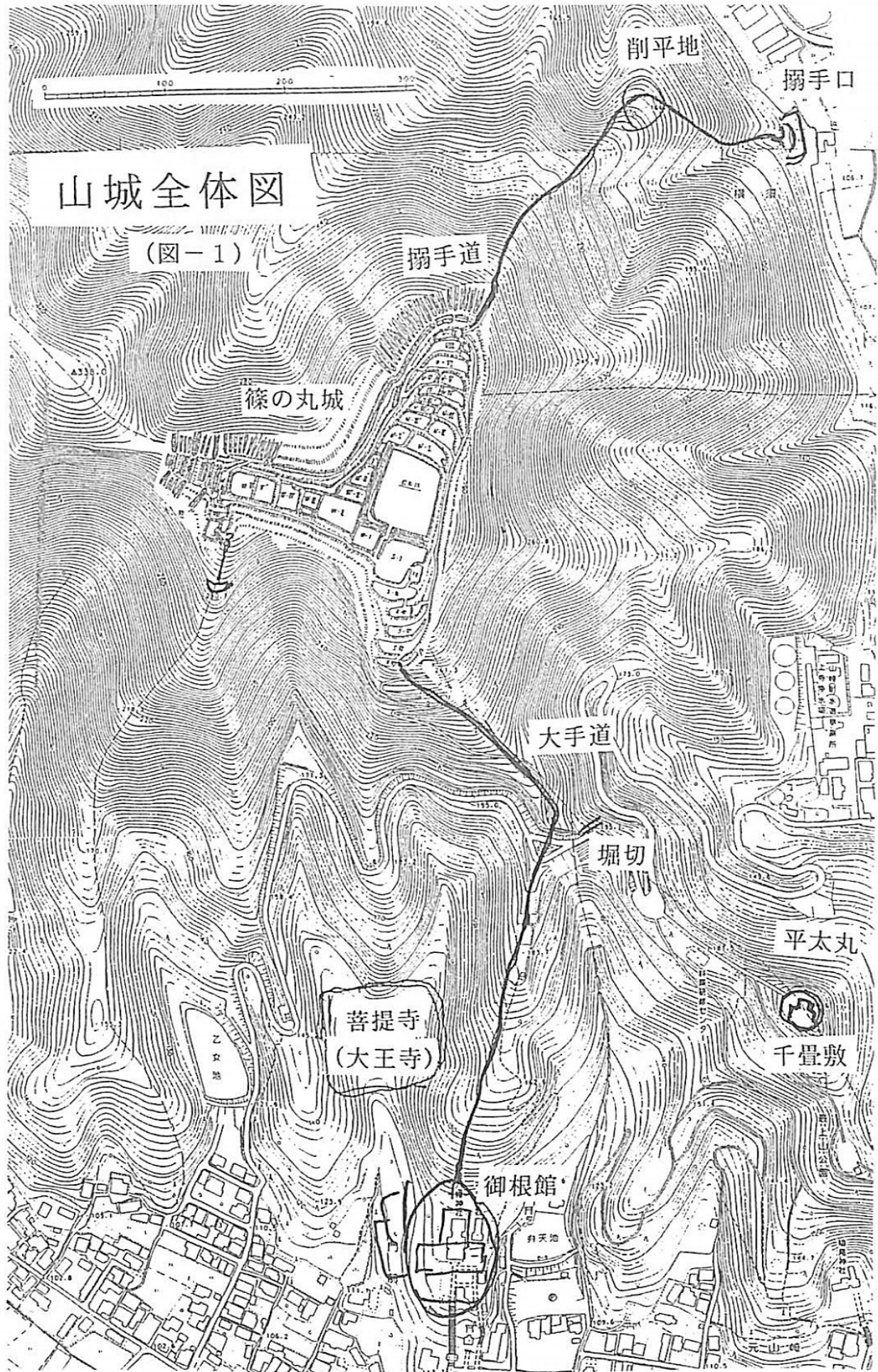
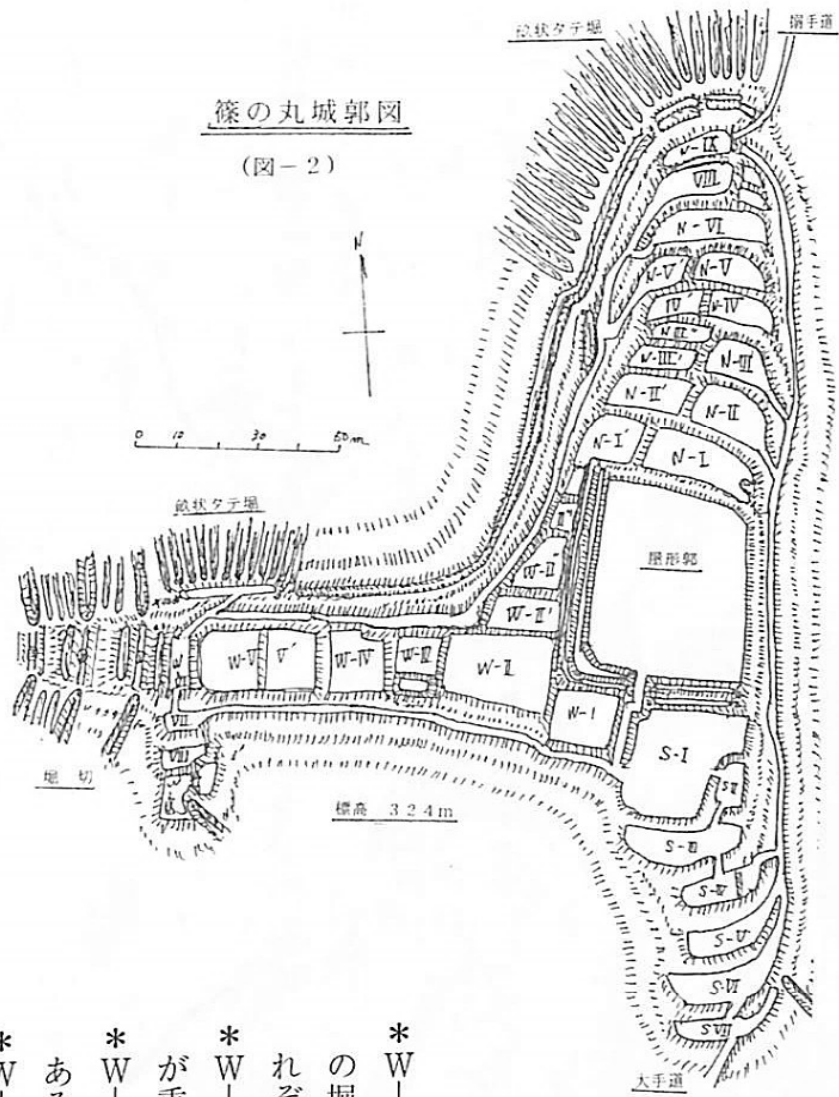


図1 山城全体図

篠の丸城郭図

(図-2)



堀の堀底道があり、W6、3郭がセットとして機能するものと考えられる。

* W-5郭 山城の最高部として高櫓があり、本来の本丸に相当するものである。西側の鞍部には三重の堀切があり、北面に深い横堀、その下部面に一二本の畝状縦堀がある。

この郭の重要性と防御の完全性を期待している。現在休憩所 が設けられて、展望のいい所である。

* W-6郭 W5郭の腰郭としての位置を占める。西側には鞍部の堀切保護としての土塁（高さ1メートル）が付随する。南北にはそれぞれ急坂があり、下部と連絡している。

* W-7郭 西城道の終点と西尾根筋の防御地点として、小さいが重要な郭である。

* W-8郭 下の郭とセットで西尾根筋の防御のための削平地である。

* W-9郭 踊り場的な小さな削平地を伴った郭で、その内に縦堀を持つ郭で尾根筋の防御を目的にしている。尾根筋を少し下った所にも削平地らしい所も見られる。

工、北郭（N-1〜9）についての説明

* N-1郭 屋形郭より四メートル下がった削平地（南北一三メートル、東西三五メートル）で、西の副郭は二メートル下にある。東の城道より一メートル高いが入口はない。（虎口状の凹みがあるが、近世の炭焼き跡と考えている。）

S1郭と一メートルの差を有する方形の郭である。

* W-2郭 北の階段状に四郭があり、W5郭に次いで大きな削平地であり、居住性から見ると最も重要な位置を占めている。

三段目の郭には「掘り抜き井戸・深さ不明」がある。

* W-3郭 南側に溜井戸をもつ井戸郭である。

* W-4郭 W5郭の腰郭W3郭としての削平地で、北側には横

*N-2郭 1郭より二層下がった削平地（南北一一メートル東西二二メートル）一、五層下がって副郭（南北一一メートル東西一六メートル）がある。

東の城道からは入口があり、北面の防御地帯と考える。

*N-3郭 2郭から三層下がった削平地（南北一二メートル東西一二メートル）西に二段の副郭を付随する。

*N-4郭 3郭から三層下がった削平地（南北七メートル東西二二メートル）中央部には〇、五層の段差を有する。東の城道から一層の高さを持っている。

*N-5郭 4郭より三層下がった削平地（七メートル×二二メートル）で、二層下がった西の郭は、南北一六メートル、東西六く八メートルで内側の横堀（堀底道）からの導入路をもつ“水溜め”と考えられる。

*N-6郭 5郭から四層の段差をもつ削平地（南北六く九メートル、東西二五メートル）で西に幅一、五層の入口をもつ。

*N-7郭 6郭から五層の段差をもつ二つの小規模な削平地である。

*N-8郭 6郭から六層の段差をもち本格的な“水溜め郭”である、今でも水分が多く、苔が生育している。9郭への水はけが西の端に認められる。

*N-9郭 8郭から三層の段差をもち、搦手道への連絡地点である。

才、続き尾根の「堀切」について

山城の西には標高三三八メートルのピークが存在しており、城としては注意を要する。そのために「西への続き尾根の鞍部」に対して

の防御として、三重の堀切と多くの畝状堅堀群で防備を固めている。（比高差は一五メートル）

*堀切-1 堀幅四メートル、上からの段差は六メートルをもつ。南北の両端には大規模な堅堀があり、2-堀切との間の北面に二本の堅堀を配置する。

*堀切-2 堀幅四メートル、上からの段差は五メートルをもつ。南北の両端には堅堀があり、1-堀切との間の北面に三本、南面に二本の堅堀を配置している。

*堀切-3 堀幅三メートル、上からの段差は四メートルをもつ。南北の両端には堅堀がある。ここより鞍部の平坦地には特に加工した部分はない。

*畝状堅堀群 W6く5郭の北面、山腹の緩斜面の防御性を向上させるために、堀幅二メートルの堅堀一二本を配置し、その上端には堀が全面に構築されている。

力、西北面の横堀について

山城の西北面には、上、下に二重の長い横堀が巡っている。

*上の堀切 W5郭からN8郭までの間をつないでいるが、W5郭の北部は特に深い。

W4郭からN8郭までは堀底道として使われただけでなく、「鉢巻き水路」として雨水を集める目的も持っていたと考えられる。

特にN5郭の入口の対岸には導水路の為の土塁が存在している。

*下の堀切 上の横堀の下部（段差四〜五メートル）に郭群を巡っている。城郭の北端から西面には二四本の堅堀群が山腹の防禦性を向上させるために設置されている。



本丸土塁

キ、城道について

城道は、東と南の二本があり、各郭を連結して機能の向上を計っている。

*東の城道 城郭のS6郭より始まり、S4郭入口から急になり、屋形郭の東部分で平坦になり、N1郭から下りになり、N9郭に至る。

道幅は、所により異なるが二〜三メートルである。

*南の城道 城郭のS1郭より始まり、W7郭に至る。W5郭の南が高く、W7郭に下る。

各郭の連結のためにあり、道幅は一、五〜二メートルである。

ク、全体の説明

篠の丸山城は、その城郭図から見れば、天文年間に大改修され（当主村頼）山城としての防禦性が多いに向上した。

その後、天正年間にも主要部が再度改修されたと考えられる。

籠城のために、水の確保に注意が払われており、横堀を利用した集水水路には感心させられるところであるが、各部分の郭の多さにもびっくりさせられる。

城郭として良く残っている貴重な遺跡である。

(三) 御根小屋（屋形）

天正八年の状況で「八幡神社の場所」を御根屋形と考えたい。しかし、山崎八幡神社の由来を見れば、応仁元年に今の場所に鎮座されたとする。

これを検証すると 次の様に考える。

ア、現在の「字限図」を見ると、この場所は「東大王寺」であり、西側の谷間は「大王寺」である。この地方の「村切り、字切り」は検地の関係から天正年間と考えられる。実際の寺院としての大王寺は 地元で伝承されていない、もし この時八幡神社があれば「字 宮の本」などとして残るはずである。

つまり、この時の神社は宇野氏の氏神様かお寺の鎮守であっただろう。場所として見る場合、実に「要害の地」であり、山城との関係も適切である。

遺跡として残っていないが、西側の谷筋に向かって屋敷跡と思われる平地が多数見受けられ、大手道もこの地点に下っていく。

門前と言う地名も八幡神社の門前ではなく、宇野氏屋形の門前であったと考える方が自然であろう。近世に城下町として整備されたため、確実な検証は難しいと考える。

イ、山崎八幡神社は、江戸時代に随分と拡充されていて「宇野氏の屋形」の跡地を確認することは難しいが、神社西の山際には屋敷跡と思われる複数の削平地を確認することができ（現在は杉林）、これらから推測は可能である。

また、もしも仮に地域の氏神としての八幡神社があったとして、地域の領主宇野氏の城郭の麓を一般人がうろつくことができらるだろうか？

篠の丸城の足元を大切に考えるのが適切である。

(四) 大手道

山城の城郭S7郭から南の屋根筋に沿って、雑木林の中に幅一、五尺の「大手道」の痕跡を認める事ができる。

大手道は、尾根筋を一直線に下り、山麓の石の鳥居の東横に出てきて、それから森林組合の倉庫の横を通って、尾根上の公園を通過して、八幡神社の西横へ下りてくる道筋である。

この公園にも二段の大きな削平地があり、防御の施設（物見櫓など）があったと予想されるが、現状からは全くその跡地を予想することはできない。

現在の登り口の標柱と看板のある下には 堀切の跡地を見ることができ、千畳敷（平太丸）方面との関連を断ち切っている。

また、回遊道路の設置によって山麓の様子が変わっているのも事実である。

(五) 搦手道

山城の城郭N9郭から一直線に中腹まで道（幅一尺）が下っており（竖堀状）、それから尾根筋に道が続き、尾根先の削平地（二段）をへて谷川の脇に出る。

そこには虎口と思われる「石積み」があり、その前に石垣で囲まれた平地が数段存在し、搦手道の防御施設（屋敷跡）と考えられる。

それより東に向かってても山裾に二段の石積みが続いている。横須地区の字限図には「字屋敷」「字上屋敷」があり、一族（上野守家か）の居住を思わせる。また、「字篠の丸」も横須地区

の字である。

(六) 平太丸城について

のじぎく文庫の『ひょうごの城紀行・下』山崎城の文中(P1一五〇)において角田氏も述べられているように「千畳敷」は篠の丸城の一部ではなく、まったく別の城郭である。

この城は「六粟山崎構之絵図」(池田家文庫)によれば近世山崎城からみては「古城」にあたり、宇野氏の古城でない事が明白である。それによれば「平太丸、山ノ高サ塩硝藏与三拾六間但ノリナシ」と記載がある。

では、誰の城なのか?それは「木下重堅」である。木下重堅は荒木平太夫とも言い、蜂須賀正勝の配下として天正八年(一五八〇)五月の因州攻めにも従っている(武功夜話・巻八)。天正九年、蜂須賀正勝が播磨龍野城に封ぜられた時、北の守りとして、この所に防御拠点を築いたものと考えられる。その後、木下勝俊も元山崎を中心とした城下町の建設をめざして「新町」の開設を命じている。(八幡神社文書)しかしこの城跡は最上山公園の設置により、完全に消滅してしまった。

(あとがき)

私は、第一回の調査で「在田氏の居城・光竜寺城」を世に出した。その城は、従来から言われていた山城の向かいにあり、寺跡であると伝えられていた場所で「在田氏の居城跡」であることがわかった。

その時に 山崎にある城跡も同じであろうと考えたが、調査ま

で至らなかった。ところが平成十七年に山崎で仕事をする事になり、再びこの事柄について考える様になって、山城跡の調査を開始した。

「篠の丸城」と「長水山城」やその他の城跡を見てゆくとき、従来、伝わっている事と異なっているところも多く、すべてを発表するには時間的な余裕がなくて調査も完了するまで待つと、かえって分からなくなるのでここで第一段としてまとめることとした。ところが、同十六年十月の台風二三号で倉庫に入れていた今までの資料の大部分が流失し、まともに時間が掛かってしまった。

しかし、「篠の丸城」の立派な城跡に感心させられるとともに是非、世の中に出さねばと思ひ報告書としてまとめた。

城郭図からもわかるように、西のピークから鞍部には「三本の堀切」と「畝状堅堀」で防備を固め、西北方面からは多数の削平地と二重の横堀を巡らしている。

また、山城に重要な「水の確保」にも数々の工夫が見受けられる。歴史的に見て戦国時代の山城のすべてをよく残しており、宇野氏が歩んだ歴史を垣間見る事ができる貴重な史跡である。ただ、明確にしなければならぬ事がたくさんあるが、これを機会にして多くの方々に興味をもっていただける事を期待する次第である。特に「長水山城」本丸の高石垣については手法と時期についての研究が必要であると考えており、調査を行いたい。これらについていろいろと御指摘を頂ければ幸いです。次第である。

百済伝説の宮崎県東臼杵郡南郷村(現美郷町南郷区)

神門神社の鏡調査について

片山 昭悟

一、なぜ、九州の宮崎県の南郷村へ行くことになったか

私は奈良時代の鏡瑞雲双鸞八花鏡について調査研究してきたが、全国の集成をするにあたり、金谷湯船口出土の同型鏡が三面も伝世し、瑞雲双鸞八花鏡を考える上で重要であり、平成四年二月二十八日に、宮崎県東臼杵郡南郷村の神門神社を訪れることになった。

金谷鏡については、昭和六年より後藤守一氏、岡崎讓治氏、中野政樹氏、杉山洋氏により調査されている。

金谷鏡が東京国立博物館に所蔵されていることから神門神社鏡とともに紹介されている。

岡崎讓治氏は、神門神社鏡のなかで湯船口出土鏡と紹介されている。

中野政樹氏も神門神社鏡と湯船口出土鏡と同型鏡で対比されている。

神門神社鏡は、金谷鏡の原型鏡の可能性が考えられることから南郷村を訪れることになった。金谷鏡のルーツを探る旅でもある。

南郷村役場企画課主幹原田須美雄氏には大変お世話になっ

て平成三年五月頃より南郷村の百済の里づくり資料をはじめ瑞雲双鸞八花鏡についていろんなことがつきつきわかることになった。

二、奈良時代の鏡瑞雲双鸞八花鏡調査と九州の宮崎県南郷村の神門神社の鏡調査について

九州の宮崎県南郷村の神門神社の鏡調査について

瑞雲双鸞八花鏡の調査研究をはじめてほぼ約一年になる。

今回で鏡を実見するのが、平城京鏡、坂田寺鏡、金谷鏡、南滋賀鏡、大久保鏡、

二面の靈安寺鏡に続いて九面目の鏡である。

ほぼ実在する鏡は見ることができた。思えば奈良平城京の長屋王

邸宅跡の調査報告書を見て、金谷出土鏡と同

型鏡が出土していることを発見して以来、この鏡についてできるか

ぎりまともてみたいと思いついた。考古学の

仕事をしはじめてどうにか人並みにやっと駆

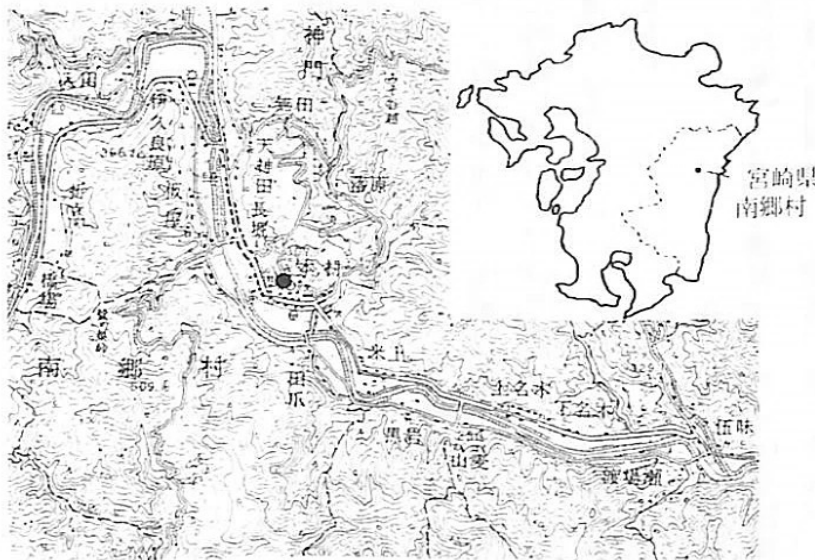


図1 宮崎県東臼杵郡南郷村(現美郷町南郷区)の神門神社の位置図 国土地理院 1/50000「神門」平成3年(縮小)

出しの所かと思われる。私の夢が考古学で一人前として報告書をまとめてみたいそれが小さな夢であり、それなりに自分でやってみようと考えた。

奈良時代の鏡であり、平城京二条大路北溝で出土していることを知り、奈良そごう美術館において長屋王「光と影」展があり、初めてみて瑞雲双鸞八花鏡とはこんな鏡であったのかと思った。

それからどうすればこの鏡について勉強ができるのであろうか考えた。そして、ほとんど毎日鏡の報告書を見ていた。

瑞雲双鸞八花鏡については、奈良文化財研究所の小池伸彦氏が平城京で調査されていることから、九州大学の『横山浩一先生退官記念論文集Ⅰ生産と流通の考古学』に、杉山洋氏が「唐

▼南郷村道路案内板



▲南郷村入口



▲神門神社

式鏡の生産と流通」のテーマで、瑞雲双鸞八花鏡の集成をされていることがわかった。

金谷湯船口出土鏡を取り上げられ、東京国立博物館蔵として写真も載せられていた。この報告書から全国に十五例の出土があることが確認できた。

平成三年二月に安富町塩野で全国初の六角形古墳の発掘調査をして、播磨国風土記に記載されている同じ山部氏の関係で、平城京と密接なつながりがあることから、山崎町金谷湯船口出土鏡と長屋王跡出土鏡と共通と、瑞雲双鸞八花鏡の写真を神戸新聞西播磨版に掲載していただいた。

金谷鏡が東京国立博物館に所蔵されていることから一度その鏡を実見できればと考えた。

まず、写真だけでも考えた。岸本直文氏（現大阪市立大学）が『兵庫県史考古資料編』の資料調査で、東京国立博物館に出張され、兵庫県の鏡と銅鐸関係の写真を撮影されることになったので、金谷鏡についても依頼したが金工室にあり、落胆したものである。

そして、瑞雲双鸞八花鏡の資料も蒐集できず、前進しなかった。どうしたらよいものか考えていると、神戸市立博物館学芸課長の喜谷美宣先生がおられることに気が付いた。

一宮町の伊和中山一号墳の発掘調査でお世話になった銅鐸の第一人者である。兵庫県埋蔵文化財専門職員研修会が三月二日に兵庫県埋蔵文化財調査事務所であり、先生が来られて

いたので東京国立博物館の写真手続き方法について教えていただくよう依頼した。森田稔学芸員よりくわしく金谷鏡の手続きについてご教示いただき、念願の金谷鏡の写真が手に入ることができた。そして、実見させていただくことを考えた。東京国立博物館工芸課金工室に所蔵されていることから、原田一敏室長とようやく連絡が取れ、八月十六日午後二時より特別観覧をさせていただくことになった。大正時代に遠く離れて東京国立博物館に永く保管されていたもので、ちょうど七十年目にはじめて金谷の地元のものとして鏡を観覧させていただいた。

瑞雲双鸞八花鏡は、平城京出土鏡以外見ていなかったのと同じ近畿地方で出土している坂田寺鏡を飛鳥資料館で実見した。

東京から戻って次に南滋賀から出土したとされる南滋賀鏡を大津市歴史博物館で、そして、十一月二日に大久保鏡を長野県埋蔵文化財センターで、十二月九日に平城京二条大路出土鏡を奈良文化財研究所で瑞雲双鸞八花鏡の第一人者である杉山洋氏、調査を担当された小池伸彦氏立ち会いのもと特別観覧させていただいた。年が明けて二月七日に再び東京国立博物館考古課原史室長望月幹夫氏に面会し、鏡とともに出土したとされる瓶と金環、銀環残欠と金谷博労垣内出土の大刀装具を特別観覧させていただいた。その時に京都の周山廃寺跡出土鏡も観覧させていただいた。次の八日に千葉県佐原市

香取神宮で香取神宮鏡を特別観覧させていただいた。続いて二月十一日に奈良国立博物館の常設展で靈安寺塔跡出土鏡二面を実見できた。

今回九州の宮崎県南郷村の神門神社鏡三面と福岡市博物館の江戸時代の青柳種信の絵図「三学院蔵鏡」である。

姫路発午後十時十二分寝台特急彗星で一路宮崎県日向市へ向う。午前七時に大分に着く。宮崎県東臼杵郡南郷村へ行く。鏡を観覧させていただくまでにはたいへん困難であった。

しかも鏡の研究については手探りの状態であり、遠く九州の奥深い村に唐式鏡を含む三十三面の鏡が神門神社に伝世されている。

瑞雲双鸞八花鏡は、三面が伝世されていることから重要であり、是非とも特別観覧を希望していた。

金谷鏡と神門神社鏡の結びつきを探る旅である。

同じ奈良時代の神門神社が伝世されていることから何らかのつながりがあった可能性が考えられる。

时期的にも神門神社鏡が古く、面径も〇・八センチも大きく、金谷鏡の原型鏡とも考えられる。二号鏡と三号鏡は同じタイプの鏡である。

神門神社鏡は、岡崎讓治氏、中野政樹氏、井口喜晴氏、杉山洋氏が現地調査され唐式鏡の中で重要な鏡と紹介されている。

三、神門神社の瑞雲双鸞八花鏡

一号鏡は、面径十一・八センチ、縁厚〇・四八センチ。

内区の第二鳥紋の羽毛の表現がややあまい。尾の表現もややあまい。鈕は素円鈕である。

全国の瑞雲双鸞八花鏡のなかでも一号鏡は、紋様も鮮明な鏡であり、きわめて重要な鏡である。一号鏡は、本庄鏡を原型に踏み返し鏡の可能性もある。そして、瑞雲双鸞八花鏡のなかでも中国鏡からの直接の踏み返し鏡とも思われる。香取鏡と同タイプであり、いずれも神社および神宮の伝世鏡であり、ふたつの鏡群には共通するものが考えられる。

二号鏡は、面径が十一・七センチ、縁厚〇・五センチ。三号鏡と同鏡と考えられる。

特徴は内区の第一鳥紋の羽毛の表現がややあまい。尾の表出もややあまい。

瑞雲紋の左右の雲紋の表現が一号鏡に比べて鮮明である。外区の第三雲紋は、ほぼ三号鏡と同じである。

三号鏡は、面径十一・六センチ、縁厚〇・五センチ。

内区の瑞雲紋と外区第二雲紋が後世に削られ、界圏線の下部が切れている。内区の第一鳥紋の羽毛の表現が尾の表出もややあまい。

左の外縁の幅が狭く、鑄上の後に削られたものである。湯口は左の第八花形付近と思われる。

とくに中国鏡と密接なつながりがあり、中国唐鏡を原型と

して踏み返されたものと思われる。神門神社鏡の製作地が九州地方であったのではないか。そして、全国に供給されたのではないか。金谷鏡は靈安寺、平城京、坂田寺と南滋賀など近畿地方において同タイプの鏡が出土していることから、どのようなルートで近畿に供給されたのか、今後において解明していきたい。

四、神門神社の瑞雲双鸞八花鏡を実見して

宮崎県東臼杵郡南郷村神門の神門神社には多くの鏡が伝世されている。南郷村役場の企画課、井口勲課長、原田須美雄主幹、黒田和幸氏ならびに神門神社禰宜若杉嘉一氏にお世話になり、特別観覧させていただいた。

神門神社には三十三面の鏡のうち古墳時代の獣帯鏡をはじめ、奈良時代の唐式鏡は十七面で、瑞雲双鸞八花鏡三面が伝世されている。私は幸運にもすべて実見させていただいた。

南郷村役場に午前十一時に到着し、企画課黒田氏の案内で神門神社へ行き、禰宜若杉嘉一氏を紹介いただき、鏡を収蔵庫より取り出され本殿前で熟覧させていただいたが、三十三面のすべての鏡をガラスケースで四〜五個にほぼ時代別に分類されていた。私は鏡を実見し、たいへん迫力があつた。一番の目的の瑞雲双鸞八花鏡三面は唐花六花鏡と同じケースであつた。早速写真撮影に掛かった。慎重に撮ることを心掛けた。

神社前で熟覧、計測、写真撮影をしていたところちょうど十二時ごろに原田氏が正倉院復元の修復関係者らと見えられ、あいさつをした。その後、撮影中にもたくさんの方が見えられ、午後一時三十分頃まで神社で鏡を見せていただいた。遅い昼食を済ませ、百済の館、村の中心部、新役場の庁舎、屋内運動場を散策して、午後三時に役場にもどった。

今日はたいへん忙しい日で、西の正倉院の入札で原田氏は応対で忙しくされていた。

私は課長の机で鏡観覧についてのまとめをしていると、午後四時ごろほぼ終了したものかと思われ、井口課長と原田氏はもどられた。前日、国際交流員の方が韓国に帰られたことで、NHKの取材や滋賀県蒲生町の助役からの電話などでゆっくりされることはなかった。

午後五時前まで企画課で百済の里づくりおよび鏡について教えていただいた。

その後、神門が一望できる恋人の丘の百花亭へ連れて行っていただいた。むらづくりの原点を教えていただいた。意義ある一日であった。

宮崎県東臼杵郡南郷村神門へは日向市からバスで一時間三十分かかる。二十七日に日向からタクシーで南郷村へ行ったが、途中の東郷町（現日向市）に若山牧水記念館に立ち寄った。道端に若山牧水の生家があり、牧水が詠んだ尾鈴の山が美しくふるさとの金谷に居るように感じた。南郷村役場の原

田氏には、鏡とともに「百済の里」のこと、また、恋人の丘へ行っていただき、南郷村神門神社、周辺の地形、環境についてご教示いただいた。

夜も宿泊の「いちもり」に原田氏が見えられ、村づくりにかける情熱を生でお聞きした。

この旅は瑞雲双鸞八花鏡の旅である出土地をたずねる研究でもある。金谷鏡のルーツをさぐる旅でもある。

二月二十八日に宮崎県東臼杵郡南郷村神門の神門神社鏡を特別観覧させていただいた。

神門神社鏡は全国の中でも唐式鏡を考える上で重要な鏡である。二月二十九日午前八時のバスで、山深い朝靄に包まれた南郷村神門を後にした。

なお、今回『山崎郷土会報』に掲載するにあたり、美郷町南郷区神門の原田須美雄氏にご教示や資料提供をいただき厚くお礼申し上げます。

拙著『奈良時代の鏡研究 出土地・伝世地を訪れて』一九九七より転載させていただいています。

南郷村は、西郷村、北郷村と合併して現在は、美郷町になり、南郷区になっている。

神門神社の宝物は、現在「西の正倉院」に保管されている。神門神社については、南郷村『百済伝説 神門物語』が、神門神社蔵鏡については、『神門神社蔵鏡図録』奈良文化財研究所飛鳥資料館2002が詳しい。

神門神社の主な参考文献

南郷村『百済伝説神門物語』1995

南郷村教育委員会『師走祭り』1998

岡崎讓治「神門神社とその同文様鏡について」『大和文化研究』第五卷第九号1960

中野政樹「奈良時代における出土・伝世唐式鏡の基礎資料

および同范鏡の分布とその鑄造技術」『東京国立博物館紀

要』第八号 1973

杉山洋「唐式鏡の生産と流通」『横山浩一先生退官記念論

文集I 生産と流通の考古学』1989

杉山洋『日本の美術 古代の鏡』393号 1999

杉山洋編『神門神社蔵鏡図録』奈良文化財研究所飛鳥資料

館 2002

片山昭悟『奈良時代の鏡研究 金谷出土瑞雲双鸞八花鏡のル

ーツをもとめて』1996

(追記)

九州の宮崎県東臼杵郡南郷村神門神社鏡調査で、これまで

平成四年二月二十八日と平成五年七月十七日に二度訪れてい

る。

神門神社禰宜若杉嘉一氏立ち会いのもとに観覧させていた

だいた。神門神社には三面の瑞雲双鸞八花鏡をはじめ三十三

面の銅鏡が伝世されている。この中には古墳時代、奈良時代、

平安時代、江戸時代、高麗鏡の銅鏡まで各時代の鏡がある。

奈良時代の鏡が十七面もあり、正倉院、東大寺大仏殿下か

ら出土した同じ鏡唐花六花鏡、香取神宮と同じ伯牙弹琴鏡、

海獸葡萄鏡、金谷鏡と同じ瑞雲双鸞八花鏡など貴重な鏡が伝

世されていることから全国的にも注目されている。

金谷鏡のルーツ鏡とされる三面の瑞雲双鸞八花鏡をみて、

そして、奈良時代の鏡群には唐花六花鏡、伯牙弹琴鏡、海獸

葡萄鏡、狻猊双鸞鏡、花禽双鸞八花鏡、花枝双鸞八花鏡など

がありこれらの貴重な鏡を実見させていただいた。

神門神社鏡については、岡崎讓治氏が「神門神社とその同

文様鏡について」『大和文化研究』第五卷第九号 昭和三十

五年に、中野政樹氏が「奈良時代における出土・伝世唐式鏡

の基礎資料および同范鏡の分布とその鑄造技術」『東京国立

博物館紀要』第八号 昭和四十八年に、杉山洋氏が「唐式鏡

の生産と流通」『横山浩一先生退官記念論文集I 生産と流

通の考古学』平成元年など多くの研究者によって詳しくまと

められている。とくに唐花六花鏡は東大寺、正倉院宝物鏡と

同じであり、伯牙弹琴鏡、海獸葡萄鏡が千葉県佐原市香取神

宮伝世鏡と同じである。奈良時代の鏡を考えるうえで重要で

ある。

三重県鳥羽市神島八代神社には、花卉双蝶八花鏡、伯牙弹

琴鏡、海獸葡萄鏡、小型海獸葡萄鏡六面、狻猊双鸞鏡、素紋

鏡をはじめ多くの鏡が伝世されている。金谷鏡と同型鏡は、十八面が出土、伝世している。

金谷鏡と同型鏡は、奈良平城京や坂田寺、南滋賀、靈安寺、桑名市山の神社、村山鏡で、新資料は、二〇一〇年に京都府埋蔵文化財調査研究センターの調査で、京都府八幡市美濃山荒坂の女谷の荒坂横穴群で出土している。横穴群で出土している。直径十一・五センチ、厚さ三ミリ。

参考文献「文化財発掘出土情報」二〇一〇年三月号



写真 神門神社の瑞雲双鸞八花鏡

鬼ども多くたむろして

浅田耕三

今から八百年、千年昔の日本には、鬼がたくさんいたのをご存じだろうか。

子どもの頃の耳に馴染んでいる童話「こぶとりじいさん」の出典は、八百年程昔に編まれた『宇治拾遺物語』の中の「鬼に瘤取らるること」であろう。

右の頬にみかん程のこぶがある樵（きこり）のじいさんはそれを卑下してめつたに人と交わらず毎日山奥で木を伐り薪を作るなりわいの他は、おばあさんと二人、家にこもって暮らしている。

ある日、山で仕事をしていると一天にわかにかき曇って暴風雨となり、帰りもできず、やむなく大木の根元の洞穴で夜を過ごす。恐ろしくて寝もやらずにいると真夜中にわかに外が騒がしくなった。おそるおそる覗いてみると、百にあまるものが集まって酒宴を始めた。やがて、その宴たけなわになるや踊りだした彼らは人間ではなかった。顔の真中に目が一つのもの、手が三本のものやら頭に一本の角、背中羽の生えているものやら、つまり妖怪、化けものたぐいであった。しかし、その踊りがあまりに滑稽でおもしろいので、じいさんは我を忘れて飛出していつて一緒に踊り回る。その踊り方

がまた、しごく巧みだったため、鬼たちにいたく気に入られ明晩も必ず来いと約束させられて、その質草（しちぐさ）として瘤を取られる。長年の悩みの種がかくてとり払われるというめでたい話。

ところで、この異形の集団はすべて鬼なのである。鬼といえば赤鬼青鬼がいて頭に二本の角、口の両端に牙、鋭い爪、筋骨隆々とした魁偉な生き物を想像しがちだが、『今昔物語』や『宇治大納言物語』それに先述の物語等に出てくる異形、魔性のものたちはすべて鬼で括られているのである。

そしてその鬼はまた容易に人の形になって人々をだます。「内裏の宴の松原」では、水も滴る美男子となり、京の一条戻り橋で源頼光に腕を切られた鬼はやがて頼光の母に姿を変えて邸に現れる。近江の瀬田の唐橋の袂、夕暮れの中に佇んでいた鬼はうら若い美しい女性である等々変幻自在、平安・鎌倉期の物語作者はなんと都合のよい便利なものを創造したのである。いや、これは十人二十人の説話作者が考えついたものではなく、当時に生きていた数も知れぬ多くの無名の庶民が寄り集まり、物食い酒飲みひまにあかしておもしろく紡ぎだし人に聴かせ、自分もきいてたのしんだ話の中で考案した代物なのだ。そして、歴大なこれらの説話は興福寺や園城寺の坊さん達が経を読む合間に、あるいは読経に飽いて拾いあつめ、編んだ説話集なのである。

ずっと以前、どなたかだったか、さる高貴な方が日本人は

勤勉で真面目な半面、ユーモアを解さぬテンションピープルだといわれたことを記憶しているが、これらの説話の背後に見え隠れする人たちはその反対で、好色で剽軽、おどけもので、ばかばかしい話をし合って笑いころげていたらしいのである。

百年前の実粟の名所旧跡

事務局 宗平圭司

このたび、本协会会员の山崎町中野 宇田辰男氏より、貴重な文語の書物を提供いただいた。

それは、故宇田義雄氏が書かれた「実粟の名所旧跡」という図書である。

氏は、華道や造花の師をしながら、明治大正時代に旧実粟郡内の名所旧跡等を丹念に調査研究し、数多くの著作を残している。

それらの中より、ほんの一部であるが、実粟の名所旧跡を紹介する。

1 播磨国一ノ宮 雲箇里 今は神戸村

一ノ宮伊和大明神 神戸郷十ヶ村当国一之宮 朱印社領二十石 祭神男巳貴尊又は大国主尊（素盞鳥尊第一の御子）軍八頭正一位伊和大明神として昔より国中の一の宮と崇め祀

る。

前殿を総神殿といい、十六郡を祀る前に拜殿がある。「正一位伊和大明神」の額は、小野道風の書である。

2 船越山峯薬師 土万郷 今是三河村船越

奥の院は、人皇四十五代聖武天皇御代に行基菩薩の開基也。本堂は八間四面の伽藍にして薬師如来を安置し奉り行基菩薩の作なり。眺望絶景の峯に鐘楼あり。

また、天下鎮災の地たるべしとして、行基に命じて七堂伽藍を建立せり、本堂は七間四面に千手観音菩薩御像は行基菩薩作なり、今当山の観音堂のご本尊なり。又一千貫寺領あり。

船越山南光坊瑠璃寺の本堂のご本尊は国宝の不動明王にて弘法大師の作なり。(残念ながら、終戦後二度にわたる火災で、他にも多くの重要文化財と共に焼失した。)

3 関の鹿ヶ壺 安師里 今は富栖村関

村より東の谷なり希代の岩穴にして大磐石の中に穴有り、其外に大小十三穴有り、大壺の深き事計り知らず。峯相記に曰く昔安志の山奥に伊佐々王とて其の鹿の長さ二丈余りの神鹿ありて二つの角に七つの草苜有り、身には苔生ひ眼の光りは日月の如し数千の鹿を相したがへ鳥けだものを殺害し、人間に及ばんとす。

勅使を下されて国中の武士を相催して終に打殺しけるとかや。大鹿のあれわたり、掘りうがちたる跡、滝壺となれり是れ故に鹿ヶ壺と名附けると也。

4 紅葉橋 高家里 今は蔦澤村小茅野

老楓樹溪流に横たわり、自然の橋をなし両側に枝葉を繁茂し欄干を造る、依て此の名あり。

5 長水山城址 石作里 今は神野村五十波

播州の霧隠の城とも云う。元来河内国の千早の城に似たり。南北は黒尾山につらなりて東西は谷深くして、人馬も登る事六ヶ敷くして、小城なれども本丸・二の丸三の丸と要害堅固の名城なり。城主は、初代廣瀬遠江守師頼より五代つづき没落後、宇野家五代つづきて宇野下總守源政頼公までなり。

6 篠の丸城址 高家里 今は山崎町横須

元は熊見城と云うて、赤穂郡赤松郷白旗播磨守則村入道圓心公の次男赤松筑前守貞範此山に始めて城を築き、貞範の嫡男顕則城主となる。後に顕則は飾東郡庄山城に移り、釜内小次郎範春より四代つづきしが、嘉吉年中に没落し、文明年間より長水家の支配と也、城名を改めて篠の丸と号す。その後四代つづきて熊見蔵人光景(宇野政頼公の嫡男)に至りて、天正七年六月に長水城と共に落城す。

以下紙面の都合により名称と場所のみ記載

7 御形城址 今は三方村三方町

8 石原城址 今は千種村黒土

9 都多岩上神社 今は蔦澤村上ノ上

10 安志の城之址 今は安師村安志

11 上野の釣子瀧 今は西谷村上野

- 12 虚空蔵大菩薩 今は染河内村下野田
- 13 鹿澤城址 今は山崎町鹿澤町
- 14 岡城山 今は神戸村東市場
- 15 聖山城址 今は河東村須賀澤
- 16 高旗山 今は菅野村市場
- 17 黒尾山 今は神戸村
- 18 石水奥の院 今は蔦澤村下牧谷
- 19 東山院奥の坊 今は戸原村川戸
- 20 草置城址 今は繁盛村草木
- 21 高取城址 今は下三方村福知
- 22 日照山神宮寺跡 今は土萬村土萬
- 23 長谷山遊鶴寺跡 今は城下村金谷
- 24 不動の瀧 今は奥谷村原
- 25 布引瀑布及び蓮花岩 今は三方村公文
- 26 大寺墓所(宇野一族) 今は千種村千草
- 27 山水景(洞門) 今は神野村与位
- 28 千年家 今は富栖村皆河

以上について詳細に解説されており、ほんの一部しか紹介出来なかったことが残念である。

事務局だより

平成二十五年度郷土研究会総会のご案内

本会の総会を次ぎのとおり開催いたしますので、多数の皆さんのご参加をお願い致します。

日時……平成二十五年四月十四日(日) 午後二時より

場所……宍粟防災センター 四階 研修室

内容……事業、会計報告、役員改選、事業計画、予算審議
他

記念講演に替えてDVD鑑賞「しそうの逸話」(最新版) 予定

このお知らせをもって、総会の案内とさせて頂きまますのでよろしくお願い致します。

外科・内科

山中医院

院長 山中潤一

山崎町西町・TEL 020036

いぎだに 生谷温泉 伊沢の里

いつも伊沢の里をご利用くださいませありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

これからも、是非、お祝い、ご法要、ご会食、団欒など会席料理から鍋物、そして定食など、なんなりと是非お申し付けくださいませ。ご予算に応じて調理させていただきます。

また、無料送迎バスもご利用ください。おいでをお待ちいたしております。

Tel.0790-63-1380 Fax.0790-63-0362

PHOTO-STUDIO
Ueyama
P.C.S

スタジオウエヤマ

●山崎店 兵庫県宍粟市山崎町山田204
TEL (0790) 62-8027
FAX (0790) 62-8827

心のゆとりのおてつだい

安井書店

YASUI BOOKS

本店 TEL (0790) 62-0700
さつき通り FAX (0790) 62-2117
ブックランド店 TEL (0790) 64-2051
山崎町中井 FAX (0790) 64-2052

パンフレット・デザイン広告・名刺・封筒・伝票
新聞広報誌・ポスター・案内状・シール等



(有) 稲田印刷

〈本社〉〒671-2577 兵庫県宍粟市山崎町山崎454
TEL (0790) 62-0254 FAX (0790) 62-4764
〈一宮店〉〒671-4133 兵庫県宍粟市一宮町須行名496
TEL (0790) 72-8600 FAX (0790) 72-8611

まごころを伝えます。

一献献上 品質本位

地酒



確かな品質と味わい。

SANYOHAI

山陽盃酒造株式会社
兵庫県宍粟市山崎町山崎28

TEL.0790(62)1010 FAX0790(62)6218

E-mail info@sanyouhai.com HP http://www.sanyouhai.com

旅行・観劇・航空券

すぐお応えいたします

神姫観光

〒671-2576 兵庫県宍粟市山崎町鹿沢68
(神姫バス山崎待合所内)
TEL (0790) 62-7588
FAX (0790) 62-0770

